

り、元來山國なれば直には付がたき道を、山に登り谷に下りて、無理に近道に作りなせり、余南〇橋かかねて聞居しは、日本の道路は、其始大かた行基菩薩の差圖なりといふ事なりしが、いづれの國の道も、山あれば其裙を通りまはりて、谷をつたひ行き、なるたけは山坂を登りくだらす、平坦の所をかよふ様に付たるものなり、只藝州に成てはまはり道なく、大方直に行やうに、山谷も厭はず、登り下りて道は付たり、他の國の道をひらける心とは、格別のやうにみゆれば、これかならず、平相國清盛の改め給ひしか、又ちかき頃の福島正則か、何れ豪雄の氣象の人のなす事なるべしとおもひしが、其後此隱戸の瀬戸の事を聞て、彼陸地も平相國の手なるべしと思ひし、

宿驛

〔延喜式兵部二十八〕諸國驛傳馬〇中

安藝國驛馬眞梨葉部字、宇南、山口、木綿、大山、荒山、安藝、伴部、大町、種篁、濃、喉、遠、管、各、廿疋

〔三代實錄清和二十七〕貞觀十七年十月十日己未、免安藝國遠管驛々子當年調

〔安西軍策三〕隆元赴防州事附大友毛利和睦事

隆元ハ周防ヲ打立、雲州へ上リ給ケル處ニ、藝州佐々部ノ宿ニ於テ俄ニ煩給、同〇永祿八月四日、行年四十一ニシテ終ニ逝去シ給ケリ、

建置沿革

〔日本國郡沿革考三山陽道〕安藝 古作阿岐古事記、天平六年九月制、安藝周防二國、以大竹河爲國堺、

上國管八郡、四百三十六村、

沼田三十三村、仲哀、此地、佐伯、六十三村、豊田五十六村、本沙田郡、延喜式等、今沙作、豊、山縣 六十四村

高宮三十二村、加茂八十八村、賀延、安藝三十八村、古國府、高田 六十二村

〔藝備國郡志上安藝〕建置沿革

日本紀云、神武元年十有一月、天皇至筑紫國、尚水門、十有二月、至安藝國、居于埃宮、云云、今考埃宮、不知其處矣、國名風土記云、神功皇后曾欲征三韓、經西海道、王師所到、簞食壺漿以迎之、到斯邦則四方